

エッセイ 楽しい“虫音楽”の世界 (その9 トンボの歌碑を訪ねる)

昆虫芸術研究家

柏田 雄三 (かしわだ ゆうぞう)

街角で懐かしい歌謡曲や童謡・唱歌の歌碑を目にすることがある。例えば東京都心では、銀座界隈の「銀座の恋の物語」「有楽町で逢いましょう」「銀座の柳」、新橋の「鉄道唱歌」、呉服橋の「宵待草」等に会える。昆虫に関係する曲もあちこちにあるが、数が多いのは童謡「赤とんぼ」である。「赤とんぼ」をはじめとする各地のトンボの歌碑を訪ねた。

《赤とんぼ》を作詞した三木露風生誕の地である兵庫県たつの市(旧龍野市)にはJR本竜野駅前と龍野公園に歌碑がある。市は児童文化の風土づくりを目指して1984年に「童謡の里宣言」を行い、1988年には「童謡の里龍野文化振興財団」を設立して「日本童謡まつり事業」を行うなど童謡の里づくりを進めている。「赤とんぼ文化ホール」、国民宿舎「赤とんぼ」や橋の袂の装飾、マンホールの蓋、イメージキャラクター「赤とんぼくん」、コミュニティバスやJR姫新線の車両など“赤とんぼ尽くし”であった。露風ゆかりの品々を展示した「霞城館」では自筆の歌詞を目にすることもできた。

露風が後半生を送った東京都三鷹市にはJR三鷹駅近くと三鷹台団地の「赤とんぼ児童公園」に歌碑が建つ。

山田耕筰が数年を過ごし《赤とんぼ》を作曲した神奈川県茅ヶ崎市には2012年オルガン型の眼を惹く歌碑が中央公園に建てられた。墓所である東京都あきる野市の

西多摩霊園にも立派な歌碑が建っている。

代表的な童謡だけあって、「赤とんぼ」の歌碑はほかに茨城県竜ヶ崎ニュータウンの「童唄のこみち」、埼玉県久喜市の青葉団地内「童謡の小道」、長野市篠ノ井の「茶臼山恐竜公園・自然植物園」の一群の童謡歌碑の中にもある。

《赤とんぼ》をもとにした曲がいくつも作られている。三宅榛名の《赤とんぼ変奏曲》は発表会でよく弾かれるピアノ曲で、林光のチェロ曲《赤とんぼ変奏曲～山田耕筰の主題による》、佐藤弘和の「赤とんぼ」を主題とするギター二重奏曲《幻想曲「陽気なトンボ」》、当摩泰久のピアノ連弾のための《赤とんぼ》等がCDで聴ける。札幌のキタラホールの専属オルガニストを務めたスロヴァキアのモニカ・メルツォーヴァさんがリサイタルで弾いた《日本の歌による即興演奏》は「赤とんぼ」を主題としていた。

歌碑があるトンボの曲は《赤とんぼ》だけではない。福島県広野町にはJR広野駅近くの「築地ヶ丘公園」に立派な《とんぼのめがね》の歌碑がある。地元の医師で童謡作家でもあった額賀誠志が子供の心に残るようにと歌詞を制作し平井康三郎が作曲した童謡である。町では「ひろの童謡(うた)まつり音楽祭」を20回も重ね、入賞作品を集めたCDも出された。町のイメージキャラクター「ひろぼー」はトンボと新しい名産品みかんなどをデザインしたものである。お目にかかった町役場の方々の東日本大震災特に福島第一原発による被害に立ち向かう姿に、一日も早い復興を祈らずにはいらなかった。

石森延男作詞、下總皖一作曲の《野菊》は野菊の花がとんぼを休ませるフレーズがある曲だ。下總皖一が生まれた埼玉県加須市(旧大利根町)の野菊公園に建つ歌碑は楽譜入りである。



図-1 ふるさとの詩 詩人三木露風珠玉の童謡・歌曲集
(財童謡の里龍野文化振興財団)



図-2 ひろの童謡集
「ひろの童謡まつり」実行委員会事務局
広野町復興企画課内

住民の交流、情操教育、町おこしや観光等に音楽が大きな力を与えていること、それが多くの人の熱意に支えられていることをトンボの歌碑を巡りながら感じる事ができた。